

- ・我が国の国際競争力を維持し、経済成長を加速化させるためには、ビジネスの現場においても、データに基づいて課題を解決する能力の高い人材、いわゆるデータサイエンスを身に着けた人材が不可欠。
- ・“データサイエンス”力の高い人材育成により、日本の企業活動の活性化及びオープンデータの利活用の促進につながることを期待。

自らの学びをサポートするウェブ上で誰でも無料で参加可能なオープンな講義「データサイエンス・オンライン講座」を開設。

*いわゆる「MOOC」の手法を利用

「社会人のためのデータサイエンス入門」

- ・平成26年12月19日受講者募集開始、平成27年3月17日開講
- ・1回10分程度×4～7回程度(1週間)×4週間のビデオ講義
- ・各週の確認テストと最終テストの実施

【内容】

第1週:統計データの活用

～コースへの導入、分析事例から分析に用いる統計的な考え方、データの見方への導入を図る～

第2週:統計学の基礎～データ分析に必要な統計学の理論的な基礎を学ぶ～

第3週:データの見方～データの見方について基本的な方法を学ぶ～

第4週:公的データの入手とコースのまとめ

～誰もが入手可能なデータである公的統計データの入手方法を学び、コースのまとめを行う～

* 上記の講座はMOOCプラットフォーム「gacco」にて受講可能

【参考1】 経済成長を担う“データサイエンス”力の高い人材育成について

ICTの急速な発展のもと、データに基づく数量的な思考により、課題を解決する能力、いわゆる、“データサイエンス”を身に着けた人材が不可欠。

これにより、我が国の国際競争力を維持し、経済成長を加速。

※ いわゆるデータサイエンスとは、データに基づく数量的な思考により、課題を解決に導く科学のこと

【課題】 我が国でデータサイエンスに関する人材が不足。

このため、“データサイエンス”力の高い人材育成とその学習基盤整備が急務。



【当面の政策】

統計(データ)リテラシーの普及・啓発を先導してきた総務省が、ICTを活用し喫緊の本課題へ対応。ビジネスマンなどの社会人に対するデータサイエンス普及のための以下の取組を統計学会等と協力し、推進。

① 統計力向上サイト「データサイエンス・スクール」の開設(平成26年6月1日)

パソコンやスマートフォンなどでデータの活用方法や統計に関する知識を、いつでも誰でも気軽に学べる学習サイト

② 「データサイエンス・オンライン講座」の立上げ(平成26年度内)

自らの学びをサポートするウェブ上で誰でも参加可能なオープンな講義
⇒「MOOC」を活用



➡ 「世界最先端IT国家創造宣言(平成25年6月14日閣議決定)」に基づき推進

【参考2】 MOOCとは

【MOOCとは】(Massive Open Online Courses の略)

- インターネット上で誰でも無料で参加可能な、大規模でオープンな講義のこと。ビデオ講義と試験やレポート、ディスカッション可能な掲示板を提供し、修了書を発行。

講座選び



受講登録



受講



修了証発行

- ・KHAN ACADEMY: 非営利の教育サイト、初等教育から大学レベルの講義まで。
- ・UDACITY: スタンフォード大学の教員が設立した企業によるサービス、コンピュータサイエンス中心。
- ・coursera: スタンフォード大学の教員が設立した企業によるサービス、世界の約100大学・機関が講座を開設。東京大学が参加。
- ・edX: MITとハーバードが共同設立した非営利組織、世界の約40大学・機関が講座を開設。京都大学が参加。

【地域MOOC】

- 自国の大学が提供する母国語でのサービスの必要性が高まり、各国で開設。
 - ・FutureLearn(英国)、France Université Numérique(フランス)、XuetangX(中国)、miriada X(スペイン)、EDRAAK(ヨルダン)、The Open University of Israel(イスラエル)。



【日本の状況】

- 日本版MOOCの普及・拡大を目指し、「JMOOC」(日本オープンオンライン教育推進協議会)が平成25年10月に発足。26年4月から「gacco」等のサイトで講座を開設。